

O.B 会報

第 14 号

1976. 12. 1

横浜国立大学

ワンダーフォーゲル部

O B 会

はじめに

O B 会事務局長 海 保

今年は、二つの遭難事故が続き、最悪の年となってしまいまし
た。五月連休の現役の奥穂遭難、そして O B 会員であり、奥穂遭
難の遺体収容の時卒先して動いてくれた十五期の大島君の谷川遭
難。

この二つの事故を通して、あらためて O B 会としての遭難対策
を考えさせられます。特に現役の事故では、各 O B の個人的な力
に依存し、O B 会としては組織を通してカンバを呼びかけること
ぐらいしかできませんでした。事故発生と同時に現地にとんどく
れた小口君（十四期）、遺体捜索等を中心となつて現地での交渉に
あたった山川氏（十二期）など、その他多勢の O B の方々の御協
力により、どうにか事故処理をこなすことができました。遺体收
容には、佐木氏（八期）丸山氏（十一期）ら五名が参加、五月十
六日 O B 総会の日に遺体収容をしたのでした。

今後、こうした事故はおこらない様祈る訳ですが、事務局にお
いても現役遭難時の O B 会の遭難対策を今一度再考してみる必要

がありとの意見もでております。今後の討議課題となつております。

事務局に一任されましたカンバの件は、以下に詳しく報告します
が、現役に遭難対策として使うようにと、全額寄付しましたので、
あらためて、カンバされた O B の方々にお礼申し上げます。

又、大島君の遭難時には、仲間である十五期を中心として事故処
理にあたり、O B 会としては、告別式に生花を供えたにとどまり
ました。

ここに二人の冥福を祈ると共に、二度とこのような悲しい事の
おこらぬ様にと願つてやみません。

さて、来年度は二〇周年にむけて、O B 会としても新たなる一
歩をふみ出したいと考えております。名簿・会報等最低限の活動
の上にさらに、O B 会としての活動を、と考え、二〇周年行事を
計画してみました。概要是去年計画したものと同じです。二〇周
年を契機に、新たなる一步を。

△昭和五一年度 O B 総会議事録△

1. 期 日 昭和五一年五月一六日（日）一三時～一七時
2. 場 所 横浜市教育会館
3. 出 席 者
（五二名）
三期 井上・白井・江崎

四期 郡司・谷上・斎藤・原・高田

五期 亀井

六期 密島・原・蓮尾・菅谷

七期 八島

八期 小出・早坂・溝田・田中・高橋・綾部

九期 三浦・上原

十期 山本

十二期 山川・岡戸・榎本・佐藤・山下

十三期 宇佐川・小沢・中村・吉里・海保

十四期 小口・鶴岡・上野

十五期 青木・岩船・牛窪・小泉・谷島・中島・萩生田

十六期 村田・池谷・本多・大竹・長田・山崎・中野・

三好・佐藤

なお、当日、現役の奥穂における遭難で遺体収容の為、佐木（八期）、丸山（十一期）、大島（十五期）、板垣、植松（十六期）の各氏がOB有志の収容隊として現地に派遣されていた。

4. 内容

- (1) 五〇年度活動報告………海保（十三期）
名簿・OB会報の作成、一〇回の事務局会、現役へのザックマークのプレゼント（今年度活動報告について質疑応答なし）

(2) 五〇年度会計報告……………上野（十四期）

収入

うち は会費

支出

で全会員の約五〇%によ

残高

るものである。

※山小屋建設当時の負債一部返却

（三期）井田・井上氏、（四期）跡部・郡司氏、それぞれ

円づつ返却しました。

(3) YWV事故報告……………植草・山口（現役）

①事故発生状況、捜索状況、遺体収容作業の状況。

②事故原因の究明及び責任体制について。

③事故におけるOBの活動……………斎藤（四期）

5・2 各期連絡

5・2・6 現地派遣第一次

5・5 第一回OB有志会合（カンパを決定）

5・9 事故中間報告会出席、第二回対策会議

5・11 第二次派遣打合せ

5・15～16 第二次派遣（佐木、丸山、大島、板垣、植松）

④事故に対する質疑応答

⑤OBより現役に対する意見

。安全面の考慮を、事故に対する認識の甘さ、基本的活動の規制を。

。ワングル活動の根本は何か、再熟考の時期ではないのか。
多様性……技術的問題ではない、技術的向上を望んでは

いけない（ピッケル・アイゼンの禁止）、山岳部との違

い（ワングルらしさ）

他配布しない）

(5) O B 各期紹介

。審査会……通ったものと通らないものとの違い。審査したことの意味の追求。

。遭難したら自己処理できる範囲で。

。審査会の実質向上（何ものにも左右されない力をもつ）

。チヨンボについては外部に対して事故をおこした何の理由にもならない。

。執行部方針の一貫性、発展性をはかる（四・五年計画にする）

。メンバー（部員）ひとりひとりの把握が必要。

等々意見が出された。

(6) 現役より遭難関係の会計報告

⑦O B 有志にて始めたカンバについての報告：小泉（十五期）O B より若干の質疑、意見ありカンバを続行する。使用方法は事務局に一任する。

支 出	円	トランシーバー	三台
收 入	円		

その後、現役の力でほぼ全額まかなえることになりましたので、
でカンバ活動をはじめ、総会にてそのカンバ活動について事務局
に一任されました。

以下、その報告です。カンバに協力して下さいましたO B の方
々、ありがとうございました。
わたししました。

奥穂遭難事故 O B カンパの報告

(4) その他

会則

二〇周年

正会員・準会員

。会則を実質的に、事務局にて検討——決議来年へ。

。二〇周年行事は延期。

。会費を一回も支払っていない会員は準会員に（会報その

（細目）カンバしてくれた人・金額

二期	吉野	円
三期	斎藤	円
井上	高橋	円
	白井	円
		円

「残金は遭難対策費にくみいれました」

九期

八期

六期

四期

諸節 江崎 藤原 森井 跡部 斎藤 横山 原 原 斎藤 永田 番谷 秋山 岡田 岡本 畑中 烟中 早坂 溝田 上島 池原 高橋 秦 朝食 馬場 木下

円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓
・ ・

近藤 三浦 天笠 縷部 田中 佐木 須藤 芦川 小出 永井 松本 久野 密島 竹内 谷 高田 郡司 谷上 井田 塩谷 腰塚

円 円 円 円 円 一 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円

十六期	十五期	十四期	十三期	十二期	十一期	一村	上原	塚本	梶野	日渡	鈴木
池谷	谷島	中島	小泉	岩船	下田	小口	吉里	海保	村松	野口	山下

円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓 冓

円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円

追記

故大島君の遺体收容には、榎本氏（十二期）中村氏・吉里氏
竹村氏（十三期）高木氏（十四期）に現地へ行つていただき、
三好氏（十六期）には対策本部としてお世話になりました。
ここに紙面をお貸りしてお礼申し上げます。

（文責 小泉）

は次の表のようになります。本年はささやかながら比良川のほと
りにテント二張りをたて小さな合宿を行いました。
表でおわかりのようにあまり高所に及ぶ活動はありませんが、
家族ハイキングのような形で近郊の丘陵地帯を歩いています。
現在一番の問題は参加される会員が固定化していることです。
関西支部の方々には是非一度参加して下さるようこの紙面をお借
りしてお願いします。また最近関西に来られたりして練絡が届い
ていない方は幹事までご一報下さい。例会のお知らせをお送りし
ます。

● Y · W · V · O B 会 関西支部の活動

東から西から
No.3

△関西支部△

関西支部幹事一期 嘉 納

関西支部には十数名の会員の方がおられます。支部活動としては、出来るだけ月一回はどこかに出かけるようにと幹事を決めて行事の案内を出しています。ここ約一年の関西支部の活動の記録

年 月 日	活 動 内 容	参 加 者
50 • 11 • 30	50 • 10 • 26	50 • 9 • 28
和泉葛城山W	箕 面 W	六 甲 W 支部総会

嘉納	諸角一家(5)、渡辺一家(4)、嘉納一家(3)、宮崎、三宅	宮崎、石橋夫妻、嘉納父子
計1名	計14名	計5名

年 月 日	活 動 内 容	参 加 者
50 ・ 12 ・ 7	忘年会（諸角宅）	諸角一家（5）、宮崎父子（2）、渡辺一家（4）、嘉納夫人、三宅、岡本一家（5） 計18名
51 ・ 1 ・ 25	新年会（渡辺宅）	嘉納父子、宮崎、渡辺一家（4）、諸角一家（5）、三宅一家（3） 計15名
51 ・ 4 ・ 18	ポンポン山W	嘉納、宮崎父子（3） 計4名
51 ・ 5 ・ 9	支部総会	嘉納、田上、宮崎、松川、渡辺、諸角、岡本、計7名
51 ・ 7 ・ 17	ピアガーデン談話会	宮崎、渡辺、嘉納、小玉、計4名
51 ・ 8 ・ 21、 22	比良山合宿	宮崎、渡辺父子、嘉納父子、計5名
51 ・ 10 ・ 24	ポンポン山一善峰寺	渡辺一家（4）、嘉納計5名

△第一期生△

一期の連中も、ほぼ“不惑”的年齢に達しつゝある。又はサラリーマン生活も、丁度折り返し地点に立っているともいえる。

それでも尚、ワングル時代に築いた体力を基に、社会生活をし、その友情を大事にすることは、変わりはない。

今秋、卒業以来の年月の半分を、西独にて活躍していた吉田君を、東京に迎えて、ワングル一期在京生が集つた。河野君（四年間の在サンフランシスコを終えた許り）、望月君（二年間の在名古屋より帰京）、桑原君、小生（共に卒業以来在京生活）暫く、じつと顔を見詰めて、ヤアとあいさつして、又じっくりと見なおすといった出合いでありました。黒沢教授バリの吉田、桑原の両君、ロマンスグレイビたりの河野、そして又、ゴルフ位では到底減量できない各人の腹廻りをお互いに、笑い合う始末。

話していると、昔と全く変わっていない活達ぶり、性格ぶりに安心と同時に、卒業以来の培つてきた各自の輝きを感じた。

田上君（卒業以来、名古屋→大阪と西へ西へと去つていった）嘉納君（横浜→大阪へ大学をかえた）等の諸君も一緒ならとふつと思つたことありました。

以下、最近の横浜国大人事録名鑑より、

◎嘉納（工・機械）

阪大工学部産業機械工学科助教授
工博・産業機械体系工学

◎田上 (経・遠藤ゼミ)

神戸製鋼・工具事業部明石工場生産管理課

◎小野 (経・久保村ゼミ)

音信不通

◎吉田 (経・黒沢ゼミ)

三菱レーヨンインテリア販売部

◎吉田 (工・機械)

三菱電機静岡製作所製造管理部工務課

◎松本 (工・黒沢ゼミ)

日本テレビ・営業局第二営業部

◎望月 (経・黒沢ゼミ)

秩父セメント生コン管理部

◎藤岡 (工・機械)

新日本製鉄君津製鉄所設備部鋼板地区設備課

◎吉田 (工・機械)

昭和石油本社計数管理部O.R.課

◎桑原 (経・黒沢ゼミ)

オリエンタル酵母経営管理部

◎河野 (経・遠藤ゼミ)

小松製作所海外事業本部付

◎佐藤 (経・藤田ゼミ)

自営

最後に私事になりますが、小生、昨夏、慢性肝炎にて数ヶ月の

入院止むなきに至りました。『不惑』は同時に、『厄年』でもあります。一期生を始め、二期生以下も毎年必ず年齢を重ねるのは、確実なワケですから、十分に自愛される様に。(一期 松本)

△第二期生△

宮崎さんちの徹くん

藤 林

君は四十七年の三月に生れたから、今はもう四才になつたんですね。僕はまだ君に会っていないけど、たぶんお父さんに似て体格のがっしりしたふっくら顔の可愛い男の子だろうね。

君のお父さんは僕の学生時代の友達で、そう、ワングル、横浜国大のワンドーフォーゲル部の二期生で、他の皆んな、例えば日立に行つてた塚原さん、キャノンカメラの吉野さん、学校の先生をしている岩上さん達と、よく山に登つたりリュックをかついで日本中を歩き回つたものでした。創立者の松本さん、望月さん達にガミガミおこられながら山道を登り、強い雨風の中でテントの柱を押えながら一夜を明かし、時にはキャンプファイヤーに、野の花に心を奪われた仲間です。

だから僕は思います。君もお父さんに似て楽しい仲間をたくさん持つた強い男になつた時、すばらしい人生を歩み始めるんだと。君のお父さんの仲間はね、前に挙げた人達の他に、岩村さん、倉田さん、荻野さんに氏平さん、ある人は名前が変つて奥様になつたけど、それは昔は元気で頑張りやだつたね。今でも不思議に

思うのは、よく男性の米屋、斎藤、渡辺さん達と一緒に高い山に登り同じ生活をしていたけれど、いつも静かでおとなしい女性だった事です。

君ももう少し大きくなつてお父さんの人となりを知るようになつたら、こんな仲間と一緒にだからお父さんは楽しい人なんだと判るようになるでしょう。

学校を卒業して皆んな散り／＼になりました。仕事を持って大阪に、福井の方に行きました。皆んな自分の道を歩き始めて十五年が過ぎたのです。でも仲間はいつも皆んなの事を思っています。

社会に出て十五年も過ぎると、あるには君みたいな可愛いい子供ができる、あるには難しい仕事の責任がのしかかり、またある人は社会に奉仕しながら家庭を守り、皆んな苦労して毎日を過しています。だからある時はガソコ者になりこわい顔をするとあります。でもその奥には十五年前の楽しい顔があります。

君のお父さんが疲れて帰つて、ときどきボーッとしていたら、たぶん昔の楽しい顔に会いたいのです。そんなとき近くの散歩でも、日帰りできる山歩きでも、あるいは冬のスキーでもぜひ誘つてあげてくださいね。自然の中でのびのびと思い切つて過した後は、楽しい顔が戻つて来ます。

△第三期生▽

そのうち集ろうよ、そのうち集ろうよという話が、何かの折に連絡すると必ずてくるのだけれど、ちっとも集れていないのが三期です。そうかといって何もないからと、これで終りにしてしまうわけにいかないのがO.B会報の原稿のようです。さて、では少ない情報で紙面をうめますか。

まず大きく動いた人の話。栗田　君です。勤めが川崎から横の木はのこったの舞台の宮城県の船岡にある仙台工場にうつり住いもそっちへ行つてしましました。

次は関西支部の話。新年会から忘年会まで年間活動は有名ですが、そのしめくくりの忘年会をいつもひきうけているのが渡辺君。

俺、みんなに会いたいんだよ。みかん狩りのシーズンにみんなして家族づれでくれないかな、といつては静岡の高橋君。

ところで、みんなでかけているのかなんて話になつた時、一人一人はまるつきり様にならないけど、三期一九人をひとつばにして年間活動をすれば結構格好がつくようです。

まず腰塚　君のスキー。春に大山を行つた人。それに五月の連休に山小屋に行って現役と笠ヶ峰をほつつき歩いた人。夏には君が家族四人で富士登山し、諸節　さんがインドへ出かけてました。そして一〇月。浅草岳の頂上に三期生がいました。

我々三期の頃は教育学部ではなく学芸学部が鎌倉にあり、時々講義をさぼり、鎌倉の裏道を歩いたり、鎌倉の部室でダベったものでした。この間、山にごぶざたしつばなしの地元育ちの人があの頃のすてきな切り通しがみつからなくてとこぼしてました。

今や休みの日の鎌倉は訪れる人に占領されてしまい、そういう人達の動きにつられ、地元の人でさえ、自分の行きたいところに行けなくなってしまったのでしょうか。ネガラチャン。

掛らなくなつたので再び小学校の教壇に立つてゐる。（郡司）

△第五期生△

五期の連中、増え盛んに活躍の様です。というのは、連中からの便りが何も無いからです。卒業後一〇余年「何か特別の事がなければ便りの交換もせず」が恒例に成つてゐる我々の期では、便りがないのが元気な知らせと、皆々の元気な活躍を疑いもなく受け入れています。とは云うものの、少々心配に成り在阪のM氏と相談の結果、完全に意見が一致し、右の文を書きました。

五期の皆様に御願い。OB総会にはぜひ顔を見せて下さい!!

△第六期生△

仙台勤務となつた跡部は集金に東北六県を車で駆け巡る多忙さで、仙台では先輩の永田博士邸に未だ挨拶に訪問してもいないとか。永田は嚴父が逝去されて早くも一周忌。

週刊現代編集部勤務の竹内は取材で各地を飛び廻りながら浦和に新居を完成。斎藤は千葉県市原市からOB事務局会に終電車の時刻を気にしながら皆勤。日立中研の牧原は研究員は卒業して現在特許部勤務。富士フィルムの谷上は家族で山登りにドライブに活動し、自社製写真賀状で毎年近況報告。斎藤は七十日間アラブ諸国歴訪の体験を基に、石油化学業界の中で生き抜く道を探している。

女性は皆家庭の主婦に納まつてと思つたら、高田は子供に手が

れどもとにかくなつたので再び小学校の教壇に立つてゐる。（郡司）

掛らなくなつたので再び小学校の教壇に立つてゐる。（郡司）

五期の連中、増え盛んに活躍の様です。というのは、連中からの便りが何も無いからです。卒業後一〇余年「何か特別の事がなければ便りの交換もせず」が恒例に成つてゐる我々の期では、便りがないのが元気な知らせと、皆々の元気な活躍を疑いもなく受け入れています。とは云うものの、少々心配に成り在阪のM氏と相談の結果、完全に意見が一致し、右の文を書きました。

五期の皆様に御願い。OB総会にはぜひ顔を見せて下さい!!

がおゆるしを、現役卒業はや十年、だれかの音頭で集まりたいところ、実感ですな。

(文責 原)

△第七期生▽

原稿を依頼されてから、早や一ヶ月が経つのではないか、海保事務局長のいかりと締切を過ぎてのあせりの顔が目に浮び、誠に申し訳なく思つております。しかしワングル七期は前回会報で報告した通りで、くわしい事がわからず、七期ひとり／＼がこんな生活をしているのではないかと想像して、報告に変えさしていただきたい。

卒業後十年目に入り、公的にはやゝベテランに入りつゝどんな事柄にもピクともしない自信があるが、この低成長（いや減速）経済下若干の責任ある立場につき、白髪がふえるか、ひたいの大きさが広がりつつある。私的には、数名の独身貴族を除き子供○～三名をかかえ、たまの休日も疲れがとれず、運動不足に体力の低下が目立ち、山には全くおさらばである。女性陣も全く同様ではないだろうか。

次回会報にはもっとくわしく書きます。今回はお許しを下さい。

△第八期生▽

我々八期二二名も卒業後、早十年目を迎えるとしている。

これまで、誰かの結婚式の都度、同期の集いが持たれたが、現在では残りもわずかになつてしまひ、昨年の芦川を最後にして、

今年はとうとう開かれずじまいであった。しかも、残されたS・T・T娘のいずれもその気配すらなく、皆なの期待も裏切られ続いている。そういうわけで情報は皆無同然である。早坂の話では岩科の君津製鉄所への転勤以外は「経済組」は変りなしとのことであった。「工学部」「教育学部」に関しては溝田と相談した結果、変りはないだろうという結論になった。来年は十年目を記念して一席設けますので今回はこれにて御容赦を。

(田中)

△第九期生▽

我々の仲間は、十七名のうち一村君が十一月に結婚するので十六名がゴールインしたことになり、結婚ラッシュからベビーラッシュの時期に移行しつつあるようである。そこで、各氏に近況を報告してもらつた。

「槍ヶ岳などの北アルプスも市内にある長野県大町市に在住して六年目。妻をもらつて四年目。長女と遊んで三年目に突入。北アルプスはいわば小生のお庭の一部。日帰りの北アルプス登山、河原でのバーベキュー、山を眺めてのゴルフやテニスの練習、十坪畠の農作業等々、そして仕事とお勉強。このように小生の青春(?)は脱都会の生活で花開いております。」(鈴木)

「私の回りには何ら変化なく毎日を過ごしています。今年の夏、一人で燕岳～大滝山へ槍穂高を見ながら縦走して、初めて上高地へ下山しました。久し振りに本格的に縦走してみて、長い間忘れていた山の生活を懐かしく思い出しました。その内出来たら槍ヶ

穂高の縦走でもしてみたいものだと年も考えず夢みています。さやかながら体力の維持を目指して週一回、近くの公園までランニングしています。先日偶然、十二期の山川君に会い、少々テレビで話しましたが。」

（日渡）
「四月七日に二男正和が生まれ、現在育児休暇をもらい来年四月に復職する予定です。忙しいとはいひながらのんびりすごしています。半年たち少し余裕が出て来て休みの間に何かやりたいと思っています。長男が小さいうちはおぶって（車で峠まで行き）ほだい峠付近を歩いたりしましたが、将来は家族で南アルプスにでも登りたいと話しています。皆様もどうぞお元気で。」

（尾崎）
「岩に雪に沢にと年間二十回位の山行を続け、今ではもう正月を雪山でむかえること今年で七回目を数えました。来年からは少し山行もへるだろう（十一月二三日結婚式）残念だが仕方がない。OB会員も全国の山々を登つてることと思します。どこかの山でアルプスでYWV会員、OBに会いたいと思っています。現在高松労山（労働者山の会）に所属しています。」（一村）

「横浜ゴムを休職、現在組合専従。タイヤ業界不況、首切りなしに立ち直れるか心配。五月二十三日結婚、平凡な家庭を着々と築いています。女房はすでに妊娠中で双子を希望、女子は不要。山には行っていない（近くに山があるから）。スキーもやらない（近くにウィスキーがあるから。浮気もしない（近くに女房がいるから）。すべてしない、やらぬ事が平凡なのだろう。平凡よさよう

なら、これが来年度の目標。遊びに来て下さい、美しい妻が歓迎するでしょう。」（天笠）

（三浦）
「今年五月に川崎（多摩区）へ移転しました。川崎といふと工場からの排煙、騒音等大変ゴミゴミした所と思われるでしょうが、こちらはまだまだ緑もありのんびりしたものでした。夏など夜に窓を開けておくとカブトムシが飛び込んでくる次第です。」

（文賀 上原）
その他では、寺本君が福岡に転勤したこと（九月）位で余り変化はない様子である。

△第十三期生△

最近、といつても四ヶ月ぐらいだが、連絡とっていないので、どうしているかな、と村松宅に電話を入れてみる。あいかわらずの夫人の美声が耳に届いてくる、彼も何の変りもなし。会うことには決め、皆に一声かければ、たちまち五人程集まる。しかし、会ってみれば、やはり結婚の話など多いですな。そうそう、我ら十三期、メデタイ話、前号にて約束した通り、ここに大っぴらに発表できるのです。村松、竹村、赤松の三人が結婚（挙式順）。実に昭和五十一年四月終りから五月月中旬にかけてバタバタと、しかも奥さんは皆ワングル中退（途中でやめさせた？）、こんなメデタク、又奇妙な、不思議なことは二度とおこるまいといふ訳で、十三期と十五期（赤村、村松夫人が元十五期）の有志が中心となり、祝賀パーティーを盛大に挙行し、三組のカップルを

サカナに楽しい一時をすごしたのでした。

これら結婚トリオに対し、光陵高トリオ（太田、吉里、海保）は地道な生活をしております。ある者はいまだ月一～二回の山行をおこない、役満ぶりこんで、会う約束といえは男だつたりで、……マジメなんだよなあ。さて、宇佐川、只今は設計事務所もやめ徳山に帰省、将来について熟慮中とか。中村は一番の高給取りながら暇なさそう。彼女に対してさかんに亭主関白になろうと今から教育しているようですが……どんな案配ですか？（いつ結婚するか等は十五期の欄参照）。小沢女史、自称二十二～三でとおし（足のサイズではないのです）。只今東京にて産休補助講師、来年はまた関西に進出か？

会った時の話では、こんなところですか。まあ、十三期、二〇代後半、結婚等で身辺あわただしくなってきました、という訳です。もつとも結婚しても、大学時代とさして変らない面々ですが。

（海保）

△第十五期生△

我々十五期はかけがえのないメンバーである大島君を、七月、谷川岳において失ないました。事故の詳細は、先にお知らせした通りですが、八人の仲間として、共に卒業したものとして、何かボッカリ穴のあいたような気がしてなりません。ご心配いただき先輩や後輩に感謝すると共に、彼の冥福をいのりたいと思います。

（文責 鶴岡）

△第十四期生△

十四期の八人、二〇代の半ばにかかつて、ようやく社会人として恥かしくないようになったのではないかと思います。首都圏に残っている者は、ほんの一握り。そういうわけで近況報告になつてゐるかどうか？ 小口……純粋長野県人になりきつた。毎日片道一時間歩くワングル実践派。道夫……ガス課からセルロース課へ、あいかわらず山小屋へ入りびたりらしい。鶴鉄……塩釜へ左

遷、東北造船の次期経営者にならんと、売れそうにない船をつくっている。水本（旧姓曾根原）……はや日本を見かぎり夫妻ともどもアメリカへ。上野（旧姓西井）……只今〇〇でお休み中、来春皆様に御披ろうします。おめでとう！ 齊藤（旧姓狩野）……はや一児のママ、ちょっと早いというウワサもチラホラ、毎日育児に忙しい。鶴岡……ようやく学校を追い出され、官吏になるそ�で、日本もダメというウワサがある。

そろそろ我ら男性も一花咲かせようではありませんか。

いるようですが) 事でしよう。残り男五人は、毎日仕事にいそしんでいるようです。十五期では、毎年、暮の三十日に山小山に集まってスキーをする事になっています。今年も、それぞれ都合をつけて集まります。

他のOB諸氏もよろしければ是非いらして下さい。

(文責 小泉)

△第十六期生▽

最も若いOB、十六期です。どうぞよろしく。

我十六期女傑カルテット大竹、長田、村田、山崎は、四名とも小学校教諭を拝命し、無事勤務し続けているとのこと。なお長田

娘はマイカー通勤一週間目で、車をよけそこねて木にぶつかったとのこと。

男性一〇名のうちストレートに卒業しつつがなく就職したのはわずか二名。工学部高橋、経済学部本多の両君。とともに商社で明日の日本経済の為に日夜努力していく忙しそうです。

残りのうち板垣、植松、佐藤、中野の四君は工学部大学院に在学中。アカデミックに研究に没頭している思いきや、口をそろえて「女が欲しい。」

我期主将の池谷君は就職に奔走しているものの前途多難な様子

広島カーブー池谷のように沢村賞がもらえるか。

残りは変人二名。岩田、松田両君。岩田君は一月遅れで卒業はしたものの、まともな就職口は搜さず、現在江ノ電で観光バスの

添員として活躍中。御利用の際はどうぞよろしく。松田君は大学に籍を置きながら映画学校に通っているとか。淀川長治に手を握られて喜んでいるそうです。日本映画の星となることを祈って下さい。

(三好記)

(さくごに)

原稿の届かなかつた期もありますが、各期OBそれぞれ元気にすごしていることと/or/思ひます。次回を楽しみに。

△事務局より おしらせ▽

(一) 今年は事故が二つも重なり、OB会としても暗く、憂うつな一年でした。五十二年度、新しい年に期待しましょう。OB会としても新しい一步をふみだしたいと思います。

伝え聞く所によれば、昭和三十二年五月一日が部認定の日とか、さすれば、昭和五十二年五月一日が二〇周年ですが。二〇周年行事を中心いて来年度の行事予定を以下のようにくんでみました。

●記念総会 昭和五十二年五月二十二日(日)

アルコール入りで、パーティー形式でこの日は予定

からあけておいて下さい。

●山小屋集結 八月中